

## 宗報インタビュー記事

日蓮宗月刊誌『宗報（しゅうほう）』9月号にインタビュー記事が掲載されました。全国の寺院住職に配布される冊子ですが、私自身が僧侶になるまでと、僧侶になった現在の思いを赤裸々に語っています。せっかくなので、檀信徒の皆さまにもシェアさせて頂きます。▼（長文のため掲載文を抜粋してご紹介します。以下、掲載文）

今回「登場いただくのは、副住職として地域とのより良い関係構築に力を入れる谷川寛敬師。総本山久遠寺での寮生活や、日蓮宗教師として資格取得に努めた精進の日々の思い出、さらに地域活動に尽力するようになった背景と取り組み内容などについて、幅広くお聞きしました。

「谷川上人は日蓮宗布教院の最年少卒業生であり、また、大修行堂三行成満されています。さらに、全国日蓮宗青年会実行委員長、全日本仏教青年会理事等を歴任され、現在は日蓮宗富山県布教師会会長とお寺の内外で華々しい活躍をされています。

今こそ日蓮宗教師として、さまざまな活動に携わらせていただいています。が、実は、お寺の長男として生まれながら、子どものころは、ほとんど信仰心が

ありませんでした。『お坊さんになんかなりたくない』という思いさえ持っていたのです。では何か他にやりたい事があるかという、それも無い。将来の夢もなく、勉強も嫌いで、いつも遊びほうけているような子どもでした。しかし、中学三年生になると、進路を決めなければいけないじゃないですか。あるとき、総本山身延山久遠寺の寮に入れば身延山高校の学費や生活費が免除されるという情報を知ったのが転機となりました。両親にはそれまでさんざん迷惑をかけていましたから、親孝行のつもりで入寮して、形だけでも高校を卒業してこうと考えたのです。でも、その考えは甘かったとすぐに思い知らされました。

——思い描いたような寮生活ではなかった、ということですか。

先輩後輩の上下関係は極めて厳格。毎日の修行もとても厳しい。実際、最初の約一カ月間の指導期間中に、同期の新入生が一人、また一人と退寮していく。結局、一年後には新入生の数は半分以下になっていました。それぐらい厳しい生活でした。それまでずっと規律のない生活を送っていた私にとって、これは言葉にならないほどの衝撃でした。もう、根底から叩き直された、という感じです。先輩方から毎日のように厳しい訓育を受ける中で、自分本位の「我」そのものが徹底的に破壊されましたね。でも、今から思うとそれが良かった。あの厳しい修行二道の生活があったからこそ、その後の荒行堂の修行にも耐えられたと思

います。さらに、先輩方もただ厳しいだけではなく、その根底には常に信仰心と慈愛、そして感謝の思いがありました。今、自分がこうして生きていられるのも、両親や檀信徒の皆さんのおかげ、という当たり前のことも、先輩方から教えていただきましたし、修行を続ける中で、両親の愛情の深さも改めて感じる事ができました。そうした僧侶としての基礎基本も、寮での生活の中で身につける事ができたのです。

——寮生活はどのくらい続いたのですか。

高校卒業後、身延山短期大学（現身延山大学）に進学しましたから、六年になりますね。身延山短大に入るころには、寮生の中でもかなりの古株になっていますから、生活はとても楽になるんです。でも、ただ威張っているだけの存在にはなりたくなかった。むしろ、後輩たちの模範になろうと、境内のトイレ掃除なども率先して行い、後輩、同輩からも信頼してもらえるようになり、最終的には寮長を務め、良き伝統は残しながら、過度に後輩たちに負担が掛からないよう、寮の規定を変えるなど、いろいろな改革も行いました。

身延山短大の最終年には信行道場で得度しましたが、名譽なことにこのときも道場生八十八名の総班長として、道場生をまとめる役割を担うことができました。その後は、立正大学仏教学部に編入学して、さらに宗学を学び、卒業後は一年間だけ世界から日本の文化を見てみたいと、アメリカに短期の語学留学をした上で、アジア諸国

を回りました。そして、いよいよ平成十二年、二十四歳の春に自坊へ戻りました。——真成寺に戻られてからは、副住職を務めながら、布教院や大修行堂など、修行を重ねましたね。

実は自坊に戻るまでの二年間、お経から少し離れた生活を送っていました。寮生活ではさまざまなお経を、それこそ暗記するぐらいに読み込んでいたのに、たった二年間のブランクで、ところどころ忘れてたり、飛んでしまったりして、うまく読めなくなってしまうのでした。そのことに愕然として、もっと修行しなければと、さまざまな研修機関の門を叩くことになりました。特に、最初の年（平成十二年）は、五月に靈断師会二級相伝九月は布教院、十一月は大修行堂という形で、立て続けに参加しました。

——本当にあわただしい一年でしたね。

高校・短大と厳しい寮生活を送っていましたから、その点では修行の免疫はできています。それに、檀信徒の皆さんにとっては、若かろうが何をしようが私をプロのお坊さんと呼ぶんじゃないですか。だからこそ、その裏付けとなる資格や自信が欲しかった、という事情もありました。特に、母方の祖父は大阪の街頭で辻説法を行い、多くの信者さんや、お弟子さんも得て、一からお寺を立ち上げた人でもありましたから、「自分も人を教化できる説教師になりたい」という強い

思いがありました。だから布教院での研修にはとりわけ力を入れていました。実際、自分で言うのもなんですが、先生方や先輩にも高く評価して頂き、一回生の時点ではなかなか得られない賞を受賞することもできました。それで大いに自信を得ました。ほかの研修機関においても、何をやってもうまくいくという感じで、自信满满でした。でも、二年目に試験を迎えます。

どのような試験でしたか。

布教院二回生のときのことですが、いろいろな条件が重なり、直前まで準備の時間が取れずに、試験では本来の力を発揮できませんでした。結果的に賞はいたいたのですが、一回生の時と比べて二段階も下のレベルの賞。本当にショックで、帰りの電車では涙を流してしまっただけでした。でもそれは、今となっては有り難い必然だったんだと思えます。絶対にリベンジしようと、さらに精進を重ねた結果、三回生では最高の賞をいただくことができました。最終的には平成十六年、二十八歳で布教師の資格を得たほか、同じ年に大荒行堂再行も成満しました。それをステップに、地域での活動を本格化しました。

試験はあっても、それを自らの努力で乗り越え、順調にキャリアを重ねられてきたという印象です。

一見そう思われるかもしれませんが、

大きな挫折も多々経験しました。特に苦労したのは、地域の皆さんとの関係です。平成十二年の時点で「命を懸けて坊主道を貫くぞ、地域を変えるぞ」ぐらいの強い気持ちをもって自坊に戻ったのですが、その気合が空回りしたこともあったんです。東日本大震災の発生後、私は被災地でボランティア活動を行ってきたこともあり、わが地域でも何かできないかと模索していました。そこで、被災地に元気を発信することも、地域を盛り上げたいとの考えから、自坊を会場にチャリティイベントを企画しました。そして、そのことを商店街の組合の上層部に提案したのです。上層部の方たちは快く受け入れていただいたのですが、実際に活動する組合員の方たちと接すると、すごくノリが悪い。「何で自分たちはこんなことをしなければいけないんだ」

「どうしてお寺が仕切っているんだ」言葉には出さなくても、不満を覚えている様子が、皆さんの態度に露骨に表れていました。お寺と地域の皆さんとの間に、これだけの距離があるとは思ってもよらなかった。というのも、父方の祖父は地域に公民館を創設し、長年にわたり初代館長を務め、社会福祉協議会の会長、あるいは日蓮宗で初となるポリースカウトを立ち上げ、地域貢献にも尽力していただけたに、ショックも大きかったです。

(後半のインタビューの様子は、来月号に続きます。お楽しみに！)

合掌 副住職 谷川寛敬



平成30年 12月16日(日) 玉蓮山真成寺 終日入場無料

第11回 冬至水行祭・ほしまつり  
Touji-Suigyo-sai Hoshi-Matsuri

一揆一撈

「一揆一撈、其の深遠を見んとす」  
「一揆一撈」は、古くから行われてきた、修行の深遠さを表している。...

「撈師に始まり、撈師に終わる」  
「撈師」とは、人々との縁を結ぶため、別名「撈師」とも呼ばれる。...

参加者募集中

●参加費 参加費  
大人 5,000円  
小学生 1,500円 / 小学生以下 500円

●飲食  
＜惣菜＞ 1,000円  
＜お弁当＞ 2,000円  
＜お茶＞ 500円  
※お茶は、白湯、緑茶、煎茶、白湯に限定。

●参加申込方法  
お申し込みは、お申し込み用紙を、お申し込み用紙に記入の上、お申し込み先へお申し込みください。

●お申し込み先  
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1  
電話 03-3222-2268  
FAX 03-3222-2269  
Eメール koushou@hoshimatsuri.jp

●お問い合わせ先  
冬至水行祭・ほしまつり実行委員会  
Tel. 0765-22-2268  
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1  
電話 03-3222-2268  
FAX 03-3222-2269  
Eメール koushou@hoshimatsuri.jp

第11回冬至水行祭・ほしまつり

◎ 開催日：12月16日(日)

◎ スケジュール

- ・早朝の部・・・6：30
- ・午前の部・・・10：00
- ・日中の部・・・14：00
- ・夜間の部・・・19：30

参加者募集中

詳しくは真成寺にお問い合わせください。